



# 住吉小だより

<http://www.fuchu12s.fuchu-tokyo.ed.jp/>

電話 042-361-6319

FAX 042-334-0873

府中市立住吉小学校  
校長 木下 和紀  
令和7年9月30日  
令和7年度 第7号

## チーム住吉 放課後算数教室

校長 木下 和紀

放課後算数教室は、子供たちが地域の方に「よろしくお願いします。」の挨拶で始まります。勉強中には、子供たちは、地域の方から算数のプリントの答え合わせをしてもらいます。地域の方から「すごいね」「よくできたね」「がんばったね」と、答え合わせの度に、称賛の声をかけてもらいます。子供たちは、頑張ったことを褒めてもらい、満足した気分となります。答えが分からない時には、「こうやったらどうかな」などの、優しい声をかけてもらいます。そして、終わりの時間になると、「ありがとうございました。」と地域の方にお礼を言って終わります。子供たちと地域の方との、算数の勉強を通しての豊かな触れ合いの時間です。

住吉小学校の放課後算数教室は、火曜日の放課後に、8名程の地域の方々のご協力を得て、実施しています。その特徴は、とにかく子供を褒めること。放課後算数教室に参加する子供は、算数が苦手な子供たちです。普段の算数の授業では、「できない」という気持ちをもつことが多く、算数に対してなかなか満足な気持ちもてません。なので、算数が苦手な子供たちが、放課後に算数の勉強をしに来るだけでも素晴らしいこと。プリントに取り組むだけでも素晴らしいこと。苦手なことに取り組む気持ち、できるようになりたいという意欲を大切にしたいという考え方です。そのため、どの子供も放課後算数教室へ参加することは大好きです。放課後算数教室に参加すると、褒められることが多く、少しずつでも、できることが増えていくことに嬉しさや楽しさを感じるのだと考えます。算数の苦手克服にまでには至っていませんが、算数は苦手であるが放課後算数教室は、好きだと言う子供が増えているのは、うれしいことです。地域の方の粘り強い関わりが、子供たちを変えていっているのだと感じます。

放課後算数教室は、地域の方の多大な協力で運営されています。特に今年度は、「私も放課後算数教室に入りたい」という児童が増えてきたため、対象児童を拡大したい旨をお願いし、みなさん快く引き受けていただいています。その一つは、対象学年の拡大です。昨年度までは、1～3年生のみを対象としていましたが、今年度から4～6年生も対象とすることをお願いしました。下校時刻の違いから、1～3年生の勉強の後に、4～6年生の勉強を行うため、地域の方には長時間、子供たちの相手をしてもらうことになりました。もう一つは、相手をもらう人数の拡大です。2学期から、1～3年生の時間に、地域の方1名に対して、子供を2名ずつ担当してもらうことをお願いしました。2名の子供たちに対して、説明をしたり、丸付けをしたり、話しかけたり、そして気持ちを盛り上げたり。とても忙しくなっていますが、「子供たちのために」と言って、引き受けてくださっています。

放課後算数教室は、住吉小学校の子供たちが地域の方に支えられていることが強く感じられる一例です。このような、住吉小学校の子供たちと地域の方との関わりが、郷土を愛し、ふるさと府中を大切に思う子供を育てるのだと実感しています。



## 5年 宿泊学習「わくわく自然教室」

5年生は9月3日（水）から9月6日（土）までの3泊4日間、長野県飯山市で「わくわく自然教室」を実施しました。初めての宿泊行事ということで、楽しみにしている声もあれば、親元を離れることへの不安の声も聞かれました。車酔いを心配する子もいましたが、片道4時間以上のバス移動にもかかわらず、大きく体調を崩すことなく、全員が元気に帰ってくることができました。

### 1日目：希望湖トレッキング

この日の目玉は希望湖の一周トレッキングです。10名ほどの行動班に1名ずつ現地ガイドが付き、植物の説明を聞きながら自然を満喫しました。クロモジの香りを楽しんだり、笹船を作って流したりと、体験を通して自然を学ぶことができました。

### 2日目：和紙体験と市内散策

斑尾高原ホテルでの豪華な食事とベッドのある部屋に興奮した5年生たちは、この日、戸狩温泉の民宿へ移動しました。午前中は和紙の紙漉き体験を行い、洋紙との違いを実感。自作のはがきサイズの和紙はお土産として持ち帰りました。市内散策では、雪国ならではの工夫がされた街並みや歴史ある寺院を訪れ、飯山市の文化に触れることができました。午後は民宿ごとに笹寿司作りを体験しました。

### 3日目：千曲川ラフティング

自然教室のクライマックスは、千曲川での約5キロメートルのラフティングです。雨にも負けず、ウェットスーツとカッパを着て活動に臨みました。班ごとにライフジャケットを着用し、ゴムボートに乗って様々なミッションに挑戦。チームワークを深める貴重な体験となりました。午後は民宿ごとのプログラムに参加し、予定していたキャンプファイヤーはできなかったものの、充実した時間を過ごしました。

### 4日目：りんご狩りと帰路

最終日は府中への帰路につきました。退村式では、民宿の方々との別れを惜しむ姿も見られ、充実した時間だったことがうかがえました。最後に班ごとにりんご狩りを楽しみ、自然教室の締めくくりとなりました。

### 帰校後のまとめ

9月9日（火）には体育館でキャンプファイヤーを行い、自然教室の思い出をみんなで振り返りました。初めての宿泊学習を通して、日常の学校生活では得られない多くの学びがありました。関わってくださった多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、これからの成長につなげていってほしいと思います。





## 読書旬間

9月29日(月)から、今年度2回目の読書旬間が始まりました。通常、図書室の貸し出しが2冊のところ、この期間は、3冊まで借りることができます。

図書委員会では、授業だけでなく、中休みにも図書室を利用してもらおうとスタンプカードの取り組みを始めます。中休みに図書室へ来て本を借りると、1つスタンプがもらえます。15個ためると、①本を1冊多く借りられる。②図書委員体験ができる。(バーコード処理の体験)③しおりのプレゼントの3つから好きなものを選ぶことができます。ぜひこの機会にこれまで以上に本に親しんでもらえたらと思います。



## 5年 読売巨人軍 体育支援授業

9月17日(水)、読売巨人軍女子チームの選手がベースボール型授業の支援のために来校されました。各クラスは4チームに分かれ、簡易的なベースボール型ゲームを実施しました。今回はバッティングを中心に、打ち方の指導をしていただき、「合わせて、引いて、くるっ!」という合言葉を使って楽しく練習に取り組みました。ゲームを通じて、子供たちは大いに盛り上がり、笑顔いっぱいベースボールを楽しむことができました。コーチの分かりやすく丁寧な指導により、子供たちの成長が目に見えて感じられ、非常に充実した時間となりました。

さらに、「TOKYO」の文字が入ったオリジナルキャップをプレゼントしていただき、子供たちは大喜び。翌日には、さっそくキャップをかぶって登校する子も見られ、思い出に残る素敵な体験となりました。



## 東京世界陸上の感動から

副校長 進藤

東京で34年振りに開催された世界陸上は、国立競技場が連日満員になるほどの盛り上がりで、まさに“世界の祭典”にふさわしい熱気でした。日本勢も奮闘し、銅メダル2個、入賞11種目、日本新記録4つという成果を残しました。その姿を観て、心がわくわくしたり、「走るってカッコいい!」と思ったりした人もいることでしょう。私自身も2日目の女子マラソン(42.195km)の沿道での応援や、最終日の女子走り高跳びや男子4×100mリレーを会場で観戦し、声援を送る中で、多くの感動をいただきました。

スポーツは、速さや強さだけでなく、努力すること、仲間と助け合うこと、そして最後まであきらめない心を育ててくれます。走ること、跳ぶこと、投げること——陸上競技はすべてのスポーツの基礎、土台であることから、「スポーツの母(Mother of Sports)」と呼ばれています。どんな小さな一歩でも、始めることが大切です。皆さんの「やってみたい!」という気持ちをぜひ行動に移してください。

